

医学生スプリングセミナー取材ルポ① 2024年3月21日(木)

鳥取県立中央病院で研修を行っている、鳥取大学医学部医学科4年廣田歩実さんを訪ねました。



午前中は、消化器内科研修中の山本直樹先生について、院内オリエンテーションや内視鏡検査見学をしたそうです。

お昼は、同じ地域卒の先輩研修医とご飯を食べながら、研修医の生活について詳しく話を聴けたとか。

午後は、福田真由先生について、研修医室でカルテを供覧し症例の勉強。



福田先生「じゃあ、採血の練習でもしましょうか！」

臨床実習が始まったばかりの廣田さん「わたしなんかやっていますか!？」

福田先生「いいんです。研修医も仲間同士で練習しています。さあ、やりましょう！」

手技の本で基礎知識を頭に入れ、

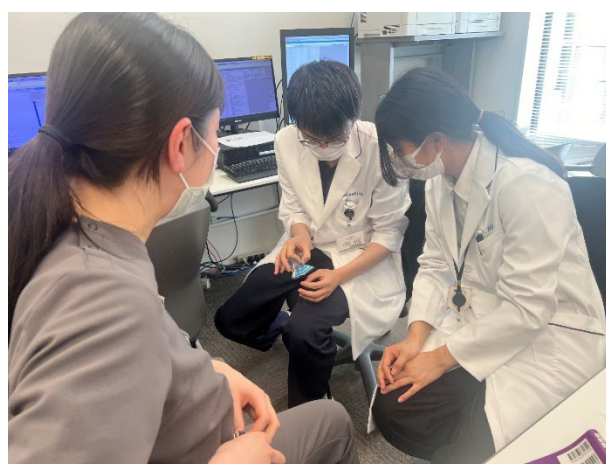
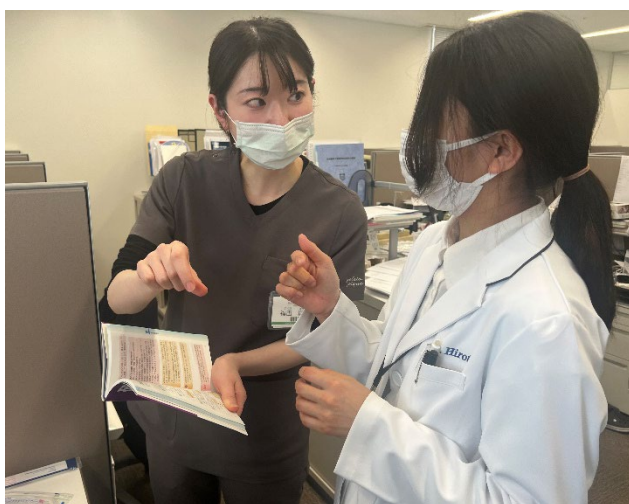
注射針の構造を見せてもらい、

ゴム管を血管に見立てて、刺してみる練習…

廣田さん「…こんな感じでいいですか!？」

研修医の先生たち「んーと、もうちょっと角度を浅くしてみて」「そうそう、そんな感じ。」

先輩研修医の先生たちも、自然と集まってきて、親切にあれこれと教えてくれています。



最後は、感染廃棄物として使った物品を捨てるまで！研修医の動きがわかりますね。



臨床研修副センター長 村尾和良先生（糖尿病・内分泌・代謝内科部長、自治医科大学卒）
にもご挨拶しました。

村尾先生より「まずは勉強と実習がんばって！国家試験に合格して医師にならないと始まらないからね。」と、温かい激励の言葉をいただきました。



～～～＜福田研修医コメント＞～～～

今回のスプリングセミナーでは午後の小児科見学を担当しました。NICU や小児科病棟を案内したり、採血練習や末梢静脈路確保の練習をしたりしました。廣田さんはこの春から5年生で、対人での実習経験はまだあまりないとのことだったのですが、同期の教えのもとルート確保に成功していました。

研修医 1 年目を経験してみて、学生の頃と大きく違うなと思うのは指導医の先生に教えていただいたことをそのまま患者さんにアウトプットするという点です。学生のときは座学でのアウトプットが主だったのですが、研修医になると診断から治療まで、実際に患者さんに対して行います。教えていただいたことを実行に移して良い結果を得ることができないときもあり、自分の力量不足を痛感する日々です。

ただルートを確保するという手技を取得するだけでなく、教わったことが実際にできたという体験をすることもとても大切だと思うので、今回廣田さんがばっちり成功していても嬉しかったです！

また、同じ境遇である特別養成枠の小児科の先生からお話を伺うこともできました。私が実習をしていた頃は COVID-19 流行の真っ只中で、あまり先生方にお話を伺う機会がなかったので、自分にとってもとても興味深いお話でした。先生方の歩まれてきた道を直接伺うと、自分の将来もイメージしやすくなりますし、選択肢も広がるような気がします。

実際に研修医として働かれるのはまだ先で、それまでにもう少し大変な道のりが待っているかと思いますが、廣田さんならきっと素敵なお医者さんになられると感じた1日でした！またお会いできる日を楽しみにしています、頑張ってください～！

～～～

～～～＜廣田さんの感想＞～～～

今日は県立中央病院で見学させていただきました。午前中は上部内視鏡を模型で体験し、その後下部内視鏡検査を見学させていただきました。

資料や患者さんのカルテを使いながら、研修医の先生・外来担当の先生にわかりやすく丁寧に教えていただきました。

午後は NICU の見学をさせていただきました。小児科では特別養成枠の先生とお会いし、卒後のキャリアや県中での働きやすさなど様々お聞きし、自分のキャリアを具体的に考えるきっかけになりました。

また翼状針による採血やルート確保などの手技は初めての実践で緊張してばかりでしたが、

優しくわかりやすくご指導いただき、無事に行うことができました。私たちも失敗したことあるから大丈夫だよ～と勇気つけながら実験台になってくださった研修医の先生方ありがとうございました！

県立中央病院は研修医の先生が多く研修医室もあるため、それぞれが経験した症例についての話しが飛び交い、とても良い雰囲気だと感じました。私も経験を積み知識をつけ、この会話に早く混ざりたいです！

~~~~~

廣田さん、福田先生をはじめ臨床研修医の先生方、臨床研修副センター長村尾先生、ご協力ありがとうございました！！（鳥取県地域医療支援センター 特命助教 紙本美菜子）